

2019年11月に第44回散策会を開催して以降、コロナ禍により当会は活動休止をしています。皆様ご承知の通り、この間、一時はコロナ流行下火となり散策会再開が期待されましたがその後は株変異でパンデミックは7次にまで至っています。

コロナ流行当初は高齢者が感染すれば重症化率、死亡率が高いことから2020年9月に散策会開催中止を提案しました。感染者数の多さ、流行期間の長さ共に予想外で長期にわたり活動を停止していますが、世の中の動きは感染者数の減少傾向を見てコロナ禍での生活正常化に向かって動き始めています。飲食規制の廃止、イベント参加人数枠の変更、水際対策の緩和、旅行キャンペーンなどで人流回復策を進めています。我々高齢者としては疫禍を恐れてばかりでは健康生活に不安あります。また、健康維持にあわせてブランクで中断している会員間の交流回復を図ることも重要です。世の中は一斉にコロナ禍の平常生活に向けて舵を切りつつありますがこれらの動きも意識しながら活動を再開したいと考えています。

開催の概略

開催時期 11月上旬ころ

開催場所 天王寺七坂巡り

ただ、非常事態宣言等の事態となれば柔軟に対応します。



続いて、コロナ禍により休止していた活動再開の表明にあわせて当「四極の風の会」の歴史について触れながら活動の趣旨をご理解いただきたいと思います。

当会の歴史は、会の前身である「大11回卒ハイキングクラブ（歩こう会）」に始まります。当クラブの活動は2003年10月に第1回の散策会を、以後年間2～3回を開催し、2014年4月、クラブから「四極の風の会」に名称変更し現在に至っています。散策会はコロナ流行の前年、2019年11月に第44回を開催して後に休会となっていることは冒頭に述べたとおりです。

名称変更は会員構成の変化によるもので、スタート時の会員は大11回生がすべてでしたが回を重ねる内に若い年次の会員が加入してついに11回生の会員数を上回る事態となったことによります。これで会の名称を単独年次から「関西四極会」全体をカバーする名称に変更されましたが、命名者の田代友二郎君（会のリーダー・故人）は次のように記録しています。

「四極を四方の果てととらえ、四方の遠い空や風景に見立ててそこに吹く風を感じて四極の風とした。

趣旨は、遠く四方を見渡し、景色を楽しみながら和気あいあいと歩を進めるとした。」尚、読み仮名は「しはすのかぜのかい」 四極とは、磯の果てで海に突き出た地形の意。四方が極まった状態をいうが、遠い風景と見立てて歩きの背景としたところがウォーカーの本領を顕しています。

当会の歴史を述べてきましたが、会員数の状況について触れます。会の名称変更時の資料では会員数は19名。現状の名簿では16名、会員の高齢化が進んでいます。この後、「四極の風の会」の維持・発展には会員の増加が必須と考えますのでこれを機に新規会員を募集します。また、一度散策会に参加してみたい方は大歓迎です。会の名付け時の趣旨にご賛同される方の声をお待ちしています。